

B—86 ジクロロイソシアヌル酸塩に関する実用的研究

数種の配合試料の漂白効果と蛍光増白剤への影響

お茶の水女子大 ○川端 京子
林 雅子
矢部 章彦

1. ジクロロイソシアヌル酸塩 (K-, Na-DCIC) の漂白効果ならびに蛍光増白剤への影響を実用的見地から検討するため、K-DCIC および Na-DCIC のそれぞれについて、添加助剤の混合比をかえた数種の試料につき、漂白効果および蛍光増白剤への影響をしらべた。

2. それぞれの試料につき、漂白効果は有効塩素 100 ~ 200 ppm で未晒金巾を Lander-0-meter を用いて、40°C, 30分の処理を行ない反射率を求めた。また蛍光増白剤への影響はブラックライトランプを用いて蛍光強度により測定した。

3. ① DCIC の K-塩と Na-塩とでは K-塩の方が溶け易い傾向を示すが、漂白効果には全く差がない。

② DCIC, STPP, Na-ABS, Na₂SO₄ の混合化を変化させても、有効塩素量をほぼ一定にすれば、漂白効果に差はみとめられない。

③ DCICへの蛍光増白剤の配合効果はその種類により著しく異なり、Tinopal RBS は DCIC により分解され増白効果がなく併用はできないが、Callcoflower 5 BT では水溶液中でも DCIC に対し、かなり安定である。しかも DCIC と同一浴で処理した布は増白剤のみで処理した布に比べて蛍光強度が 3 ~ 4 倍に増大している。

④市販合成洗剤中の蛍光増白剤は DCIC に対しかなり不安定で、試験した 7 種の洗剤に関しては DCIC と同時処理によって蛍光強度が 30 ~ 65% 減少する。